

(当テキストは決算説明会における説明を元に投資家の皆様の利便性を考慮して、要約としてまとめたものです。当日の説明を一言一句書きとめたものではありません。ご了承ください。)

## P2 「2011年3月期 第1四半期決算<概略>」

- ・ 当期純利益は前年同期比約8倍、営業利益では約3.5倍と大幅な増益を達成。
- ・ ITサービス、マネージドドキュメントサービス(MDS)などのソリューション販売増加等により粗利率が改善し、また構造改革の継続によって、経費削減、体質改善等々を進めることによって、営業利益が計画を上回って着地しました。
- ・ MFP販売台数は、前年同期で増加に転じてきており、まだ予断を許さない状況ですが、需要は着実に回復してきていると考えています。
- ・ プロダクションプリンティング、ソリューション等の新規事業は、順調に2桁成長を続けています。
- ・ 当期純利益の増加に加え、運転資金のコントロールも進み、フリーキャッシュフロー205億円を創出しました。
- ・ 足元の為替円高を考慮し、第2四半期以降の為替の見通しを変更しております。ドルに関しては1ドル90円の前提は変更しておりませんが、ユーロにつきましては1ユーロ120円から110円に変更いたしました。この為替前提の変更は減益要因になりますが、新規事業やソリューション事業の拡大などでこれを補う計画であり、通期見通しは変更しておりません。
- ・ 配当予定額につきましても引き続き33円と変更はしておりません。

## P3 「2011年3月期 第1四半期 業績」

- ・ 売上高は4,829億円と、残念ながら若干の減収になっています。内訳は、国内が3%の増収、海外が5.1%の減収となっております。為替影響を除くと海外は2.3%の増収、グループ全体も2.6%の増収となっています。
- ・ 売上総利益は、高付加価値商品であるカラーMFPや、MDS、ITサービスなどのソリューション販売の増加により、円高の影響を相殺して総利益率は40.8%から42.3%まで改善しております。
- ・ 構造改革によって経費が削減されたことも加えて、営業利益は218億円と約3.5倍の増益を達成いたしました。
- ・ 税引前利益は、154億円と約4.5倍、純利益が73億円と約8倍の増益を達成しております。

#### P4 「2011年3月期 第1四半期 営業利益:前年同期比増減分析」

- ・ 販売増による利益増分 180 億円は、カラー機やソリューション事業などによる増加分を含んでおります。
- ・ 製造原価低減によって 12 億円の利益増加要因となりました。年間では 50 億円程度の低減を見込んでおり、想定通りに推移しています。
- ・ 研究開発費削減で 16 億円。その他の経費の削減で 30 億の利益増となりました。
- ・ 為替影響ネットの -80 億円は、為替が総利益に与える影響 -152 億円、海外経費の為替による目減り分 72 億円による合算で、利益減少要因となりました。

#### P5 「2011年3月期 第1四半期累計 分野別売上高」

(製品別売上高)

- ・ 画像&ソリューション分野は、2.8%の減収(為替を除くと 1.9%の増収)となっております。ネットワークシステムソリューションが2桁の増収になっております。画像ソリューションは、4.8%の減収となっておりますが、現地通貨ベースでは 0.1%の増収を確保しています。
- ・ 産業分野、その他分野につきましては、それぞれ増収を達成しております。

(地域別売上高)

- ・ 日本は、3%の増収となっております。ハードについては回復基調に入ってきておりますが、ノンハードについてはカラー出力を抑制しているお客様もまだ多く、ハードに比べるとやや回復のスピードは遅い状況です。
- ・ 米州は、商談が徐々に増加してきており、需要の回復感も見られますが、積極的に投資に転じるまでは達していない状況です。ただ、プロダクションプリンティングなどの大型商談もいずれ動き出すと期待しています。
- ・ 欧州では、政府系で機器購入や出力量の抑制をする動きも一部の国でありましたが、リコーにとって主要な市場であるイギリス、フランス、ドイツなどでは、目立った影響はなく、特に民間では大型商談も活発になってきております。
- ・ その他地域では、約 20%の増収と堅調でした。

#### P6 「2011年3月期 第1四半期累計 連結セグメント情報:事業別(1):画像&ソリューション分野」

- ・ 画像&ソリューション分野全体では、為替の影響を除いて 1.9%の増収となっております。画像ソリューションでは同様に為替を除いて若干の増収、ネットワークシステムソリューションでは2桁以上の増収となっております。
- ・ 営業利益率は 8.9%と大きく改善しています。2008 年度第 4 四半期を底に回復をしてきておりますが、これは構造改革の効果によるものと考えております。

**P7 「【参考】最近のトピックス」**

- ・ 昨年から今年度の前半までは新製品の投入はほとんど行なっておりません。今年度、新製品は下期にかけて徐々に品揃えされる予定です。

**P8 「2011年3月期 第1四半期累計 連結セグメント情報:事業別(2):産業分野」**

- ・ 産業分野は、大きく増収となりました。営業利益も8四半期ぶりに黒字化いたしました。

**P9 「2011年3月期 第1四半期累計 連結セグメント情報:事業別(3):その他分野」**

- ・ その他分野は、デジタルカメラ、ファイナンスなど様々なビジネスが含まれます。赤字基調ですが、第1四半期はほぼブレイクイーブンに近づけることができました。今後、さらに改善いたします。

**P10 「2011年3月期 第1四半期累計 連結セグメント情報:所在地別(1):日本、米州」**

- ・ 日本:売上は9%増収、利益率も5.1%まで戻ってきました。2008年度の第4四半期を底に回復を続けています。
- ・ 米州:非常に残念ながらまだ若干の赤字が残っています。過去10年ほど、様々な買収に伴う組織統合などを行なってまいりましたが、もうあと一息というところまでまいりました。2011年3月期末には、黒字に転換したとご報告できると考えております。

**P11 「2011年3月期 第1四半期累計 連結セグメント情報:所在地別(2):欧州、その他」**

- ・ 欧州:円高の影響はありますが、前年同期で比べると約10億円の増益になっています。営業利益率も6%近くまで回復してまいりました。
- ・ その他:まだ規模は小さいですが、順調に伸びてきています。更なる業績貢献を期待しています。対前年では約20億円の増益を達成しています。

**P12 「連結貸借対照表 <2010年6月末>」**

- ・ 総資本は、2兆3,610億円と、3月末と比べて228億円の減少になっております。
- ・ 長期債務が865億円増えて、短期借入金が272億円減少しています。これは、リコーリースが、長期債務を増やす一方で短期借入を減らしたこと、リコーが発行した社債600億円によるものです。

**P13 「【参考】連結貸借対照表:主要指標推移」**

- ・ 総資産回転率は、0.81 と、前年同期比で若干ですが改善しています。
- ・ 株主資本比率は、負債が増加したことにより若干低下しています。
- ・ 棚卸資産回転期間は 1.85 と、3 月末よりは季節要因もあり若干低下しております。昨年 6 月末と比べますと改善しています。

**P14 「連結キャッシュフロー計算書 < 3ヶ月分 >」**

- ・ 内部留保は、前年と比べ 53 億円増加しました。
- ・ フリーキャッシュフローは 205 億円と、前年と比べ約 145 億円増加しています。四半期推移では 2008 年度第 4 四半期から、キャッシュインの状態が続いています。今後も継続できる見通しです。

**P16 「2011年3月期 通期 業績見通し」**

- ・ 通期見通しについては、円高を吸収して、なおかつ期初に申し上げた数字を達成できる見通しです。
- ・ 為替前提は第 2 四半期以降、ユーロ 110 円、ドル 90 円としています。
- ・ 研究開発費は 1,120 億。設備投資は 720 億の見通しです。

**P17 「2011年3月期 通期 営業利益見通し: 前年度比増減分析」**

- ・ 期初に申し上げた数字から為替レートの変更などを受けて、一部の項目で若干修正しています。製品原価低減、研究開発については変更しておりません。

**P18 「2011年3月期 通期 分野別売上高見通し」**

- ・ 製品別で、全ての事業分野で増収を達成するという計画に変更はございません。
- ・ 地域別では、日本とその他地域の売上をこの第1四半期の実績を踏まえて若干引き上げております。欧州の売上は、為替影響によって減収の見通しとなっておりますが、為替を除く実質ベースでは売上増加を見込んでいます。
- ・ 売上高における新規事業比率は 16%程度になる見込みで、期初見通しから変更はございません。新規事業へのリソースのシフトを進め、新規事業の成長を更に加速させたいと考えております。

**P19 「【参考】連結財務指標推移（年度別）」**

- ・ 配当について、3年連続で33円としておりますが、是非今期も33円は守りたいと思っております。